



2017 年 8 月 28 日

BMW Team Studie の BMW M6 GT3 は、 最後尾 30 番からのスタートも、トップと同一周回 11 位で完走 2017 AUTOBACS SUPER GT Round 6 SUZUKA 1000km RACE

ビー・エム・ダブリュ株式会社(代表取締役社長: ペーター・クロンシュナーブル)が、コラボレーション・パートナーとしてサポートする BMW Team Studie の BMW M6 GT3 は、8 月 27 日に開催された 2017 年 SUPER GT 選手権第 6 戦の決勝において、11 位でフィニッシュした。

公式練習

チームのサードドライバーとして、BMW 現 DTM ドライバーのアウグスト・ファルフス選手を迎えた第 6 戦の初日は、曇り模様の路面はウェットでのスタートとなった。チームはまずそのファルフス選手のドライブで走行を開始した。1 年ぶりの鈴鹿サーキットを確認しながら、無線とマシンのフィーリングをチェックした。そしてピットにマシンを戻すと、ヨルグ選手にマシンを預け、ウェットタイヤ確認のために数周を走行した。コースコンディションが向上する中、マシン全体のフィーリング確認を終えるとピットへ戻り、再びマシンにはファルフス選手が乗り込み、ドライタイヤの Studie BMW M6 で本格的な走行を開始した。練習走行の時間枠を大きく使い、バランス確認を行うと、最後に荒選手がドライブを担当し、練習走行を終えた。

公式予選 Q1

Q1 は荒選手がドライブを担当した。トラフィックを避ける為、4 分弱のウェイティングの後、Studie BMW M6 はコースインした。アウトラップに続く計測 1 周目と 2 周目でタイヤを温め、アタックを開始した。性能調整によるパワー不足を少しでも挽回するため、荒選手は渾身のアタックを行ったが、ライバルとの差を埋めきる事は出来ず、Studie BMW M6 は 25 番手ポジションでこの予選を終えた。

決勝

第 6 戦の決勝日は快晴でスタートした。最後の鈴鹿 1000Km レースを飾るのに相応しい、真夏の空の下で決勝は開催された。決勝日のスケジュールがタイトな為、レース前の走行はウォームアップランの 20 分間のみで、まずはヨルグ選手がアウトラップに続く計測 2 周でマシンを確認した。続いてファルフス選手が乗り込み、コンディションを確認したが、そこでマシンのエアコンシステムに不具合が発覚した。真夏にエアコンが作動しない場合、室内搭載の ECU 類にエラーが生じるため、ピットスタートにする事により、タイヤ戦略をフレキシブルに出来る事から、チームは決勝をピットスタートとする事を決断した。

エアコンシステムの修理は決勝スタートの 5 分前に完了。そして、荒選手が乗った Studie BMW M6 は、ピットロードエンドがオープンすると同時に、コースインした。スタート直後から荒選手はトップ集団と同等の 2 分 2 秒台の速いペースを維持し、ピットスタートによるタイヤ戦略変更でもアドバンテージを得て、序盤で大きく順位を上げた。荒選手は 17 番手までポジシ

ヨンアップしたが、先行するペースが遅いマシンにより、Studie BMW M6 のレースは膠着状態となり、チームは当初の予定を変更して、ルーティンのピットタイミングを早めて、荒選手を呼び込んだ。

セカンドスティントはヨルグ選手が担当した。ヨルグ選手も荒選手同様、2 分 2 秒台の速いペースで担当の周回を消化し、スティント中に 300 クラスのクラッシュでセーフティーカーも導入されたが、チームの戦略に影響は無く、Studie BMW M6 は 52 周目にルーティンのピット作業へ向かった。

サードスティントは今回のサードドライバーとして招聘した、現役 DTM ドライバーのアウグスト・ファルルス選手が担当した。ファルルス選手も、先の 2 人同様、素晴らしいペースで周回数を重ね、更にポジションを上げて行った。

ドライバーが一巡して、4 度目のスティントは荒選手が担当した。このスティント中にも 300 クラスのクラッシュで、セーフティーカーが導入され、Studie BMW M6 は解除後に隊列が整った時点で、ポジションを 12 位まで上げた。

109 周目に荒選手はピットインし、再びヨルグ選手がマシンに乗り、コースへ向かった。5 度目のスティントのヨルグ選手はタイヤに苦しむ展開になり、前後のマシンと一進一退のバトルを続け、実質 12 番手のポジションを渡すことなく、ラストスティント担当のファルルス選手にバトンを繋いだ。

ファルルス選手は 2 分 1 秒台後半から 2 秒台前半で周回数を消化した。途中、タイヤのドロップに苦しみ、後続車にオーバーテイクを許したが、上位マシンのトラブルもあり、最後尾 30 番からスタートのレースを、トップと同一周回の 11 位完走で終えた。

鈴木康昭 チーム代表兼監督

「長く苦しいレースでしたが、皆の持てる力をフルに出し切って獲得した完走 11 位。しかもトップと同一周回の結果には満足しています。現状の鈴鹿での BOP が見直されない限り、ここでの勝利は難しいと思います。」

ヨルグ・ミュラー選手

「30 位からスタートして、終始エアコンも機能せず、本当にタフなレースでした。しかし、チームのみんなも、チームメイトのファルルスもセイジも、諦めずにプッシュし続け、どんどん順位を上げて最終的には、11 位でフィニッシュする事が出来ました。チームポイントも 3 つ取る事ができて、楽しいレースでした。」

荒聖治 選手

「11 位まで順位を上げて終えることが出来ましたが、レース中に前のクルマを抜けない、抜くことが非常に難しい等、あまり自分達のペースで走る事が出来ない非常に苦しいレースだったと思います。残り 2 戦となったので、次のタイでも良いレースが出来る様、いろいろ見直

して、全力で戦います。」

アウグスト・ファルルス選手

「この鈴鹿 1000km に戻って来られたことを嬉しく思っています。このチャンスをくれたチームボスのボブに感謝しています。素晴らしいチームメイト、ミューラー選手もとても良い仕事をして、ピットスタートから 11 位でフィニッシュ出来た事は良かったと思います。また来年、ここに戻って来たいと思います。またお会いしましょう！」

この件に関する読者および視聴者からのお問い合わせ先は、
BMW カスタマー・インタラクション・センター:フリーダイヤル 0120-269-437 を
ご掲載ください。

受付時間: 9:00-20:00 年中無休

BMW インターネット・ウェブサイト: <http://www.bmw.co.jp>

この件に関する報道関係者のお問い合わせは:
BMW Japan Corp. 広報室:03-6259-8025(企業広報)